



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト： ムルシー大統領に辞任を要求する大規模抗議が発生

1. 6月30日の抗議の概要：7人死亡、613人負傷

6月30日、ムルシー大統領に辞任を要求する署名運動を行っていた「反乱運動」（タマッロド）の呼びかけで、全国で反大統領デモが行われた。カイロのタハリール広場や大統領府周辺には、反大統領派の民衆数万人が集まり、「出て行け」と叫んだ。

一方、自由公正党などイスラーム主義勢力は、カイロ・ナスルシティー地区のラービア・アダウィーヤ・モスク前で、28日から、大統領を支持する座り込みを続けている。イスラーム主義勢力は、ムルシー大統領は選挙で選ばれた正統な大統領であると叫んだ。

カイロ・モカッタム地区のムスリム同胞団本部前では、大統領支持派と反対派が火炎瓶や石を用いて衝突、報道によると、少なくとも2人が死亡した。アレキサンドリア、シャルキーヤ、ガルビーヤ、ベヘイラ県の同胞団事務所も襲撃された。その他、アシュート県で3人、ベニ・スウェーフ県で1人、ファイユーム県で1人が死亡したとの報道がある。保健省発表によると、30日だけで613人が負傷した。

※「反乱運動」による6月30日のデモ計画、軍・警察・政府の動きについては、「中東トピックス」No. T13-006（2013年6月28日）をご参照下さい。

2. 反乱運動の要求

デモ主催者である「反乱運動」は、同運動のウェブサイト上に声明第1号を発表した。

- ・「反乱運動」は、ムルシー大統領に辞任を求める署名を2,200万人分集めた。よって、同大統領はもはや国民から信任を得た正統な大統領ではない。
- ・7月2日午後5時までに大統領が辞任するよう求める。辞任しない場合は、我々は抗議を継続する。
- ・早期の大統領選挙を求める。
- ・我々は平和的に抗議を続ける。

3. 政府側の反応

30日、大統領報道官は記者会見を行い、現在の政治的危機から脱出できる唯一の道は、全政治勢力を交えた対話であると強調し、デモ参加者には平和的手段でデモを行うよう呼びかけた。オバマ米大統領がムルシー大統領に野党との対話を求めたことに対しては、エジプトは西側諸国による内政干渉を受けないと批判した。また、軍幹部が野党に対話を呼びかけているとの報道を否定した。

4. 短期的展望

反乱運動は7月2日までの大統領辞任を要求しているが、ムルスィー大統領が実際に2日までに辞任する見込みは低い。したがって、反大統領派のデモは、2日を過ぎた後もしばらく続くと思われる。今後、ムルスィー大統領および政府は、反大統領派に対話と呼びかけていくであろうが、彼らに対話に応じる気配はなく、都市部でデモが続く可能性がある。双方のこう着状態を打開するために軍が仲裁に入るのか、仲裁に入るのであればどのような方法がとられるのか（デモ隊強制排除／対話の仲介など）、注目される。

なお、タハリール広場のデモにおいて、外国人女性に対する性的暴力事件が発生し、アレキサンドリアでは米国人男性がデモ隊によって殺害される事件が発生している。外国人は、デモ発生場所に近付かないことが望ましい。

(金谷研究員)